

モラルなき悪戯：落書き

新潟県「大沢鍾乳洞」の例を通じて

千葉 伸幸 (CHIBA, Nobuyuki) ※

1. はじめに

イタリアのサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂に某市立女子短大生が落書きをしたことを発端に、2008年の夏は、洞窟における落書きもマスメディアによって注目された。

毎日新聞(2008年7月3日付)には「落書き：天然記念物の鍾乳洞に数十ヶ所 北九州」、産経新聞(同年7月4日付)には「秋芳洞も落書き被害 名前や日付 100以上」と掲載され(CJ34号参照)、テレビのワイドショー番組でも何回か取り上げられた。

しかし、周知の通り、洞窟の落書きは「千仏鍾乳洞」や「秋芳洞」に限ったことではない。特に一般開放されている洞窟は、目に余る状態になっていることも多い。

ここでは2008年11月3日に訪問した新潟県「大沢鍾乳洞」を例として紹介する。

2. 大沢鍾乳洞の概要



大沢鍾乳洞の位置

おおさわ
大沢鍾乳洞は新潟県五泉市(旧：中蒲原郡村松町)刈羽字大沢乙1195外にある、五泉市指定文化財(旧：村松町指定文化財)の石灰質砂岩洞である。総延長141.9m・高低差14.9mの横穴で、民有地に開口しているが観光施設であり文化財であるため、現在は五泉市商工観光課村松事務所と五泉市教育委員会生涯学習課村松事務所が管理している。

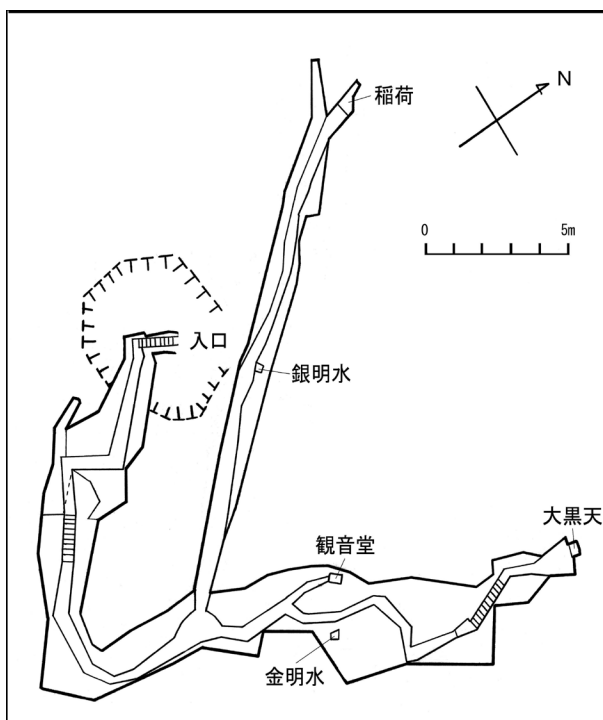
県道67号線(田上村松線)の大沢峠付近には、案内板や駐車場、簡易トイレが設置されており、そこから案内板に従って山道を約300m(徒歩約20分)

登る。すると、説明板やあずまやのある広場へ到達、その中央の窪地の底に「大沢鍾乳洞」が開口している。

洞内に照明はないが、鉄柵や階段、コンクリート製の通路が整備されており、ライトさえ持参すれば誰でも自由に見学できるようになっている。また、洞内には観音堂(悲母観世音)、稲荷、大黒天、金明水、銀明水があり、供物のあることから定期訪問者がいることがわかる。

平安時代後期には豪族：大沢嘉久馬一族が居塞としていたという伝承があり、その豪族の滅亡後は洞窟に訪れる人も無く、洞口は草木に覆われ、長い間人々から忘れられた存在となっていた。

現地の開洞記念之碑によると、1913(大正2)年10月に佐藤亀藏氏・佐藤正治氏が発見。その後、佐藤正治氏ほか6名が探検を行い、1933(昭和8)年10月には補修工事が行なわれた。なお、佐藤亀藏氏は地元の石工であり、隣接する鉱泉宿「亀徳泉」の創立者である。



大沢鍾乳洞平面概念図(現地案内板を元に作成)